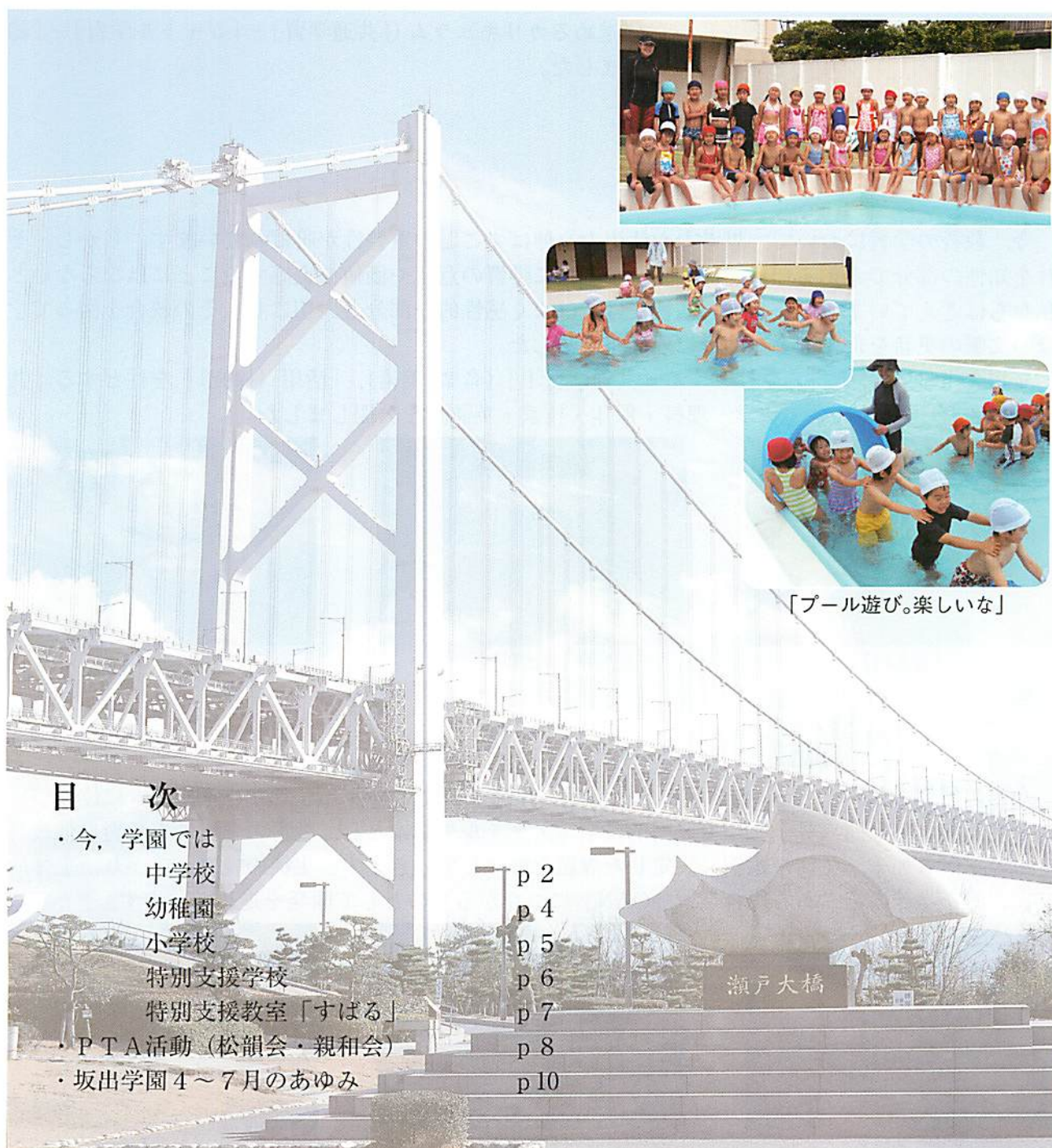


香川大学教育学部

# 附属坂出学園だより

第36号

2010.7



「プール遊び。楽しいな」

## 目次

- ・今、学園では
  - 中学校 p 2
  - 幼稚園 p 4
  - 小学校 p 5
  - 特別支援学校 p 6
  - 特別支援教室「すばる」 p 7
- ・PTA活動（松韻会・親和会） p 8
- ・坂出学園4～7月のあゆみ p 10



## 6月11日（金） 研究発表会 県内外から600名参加

### 「学ぶこと」と「生きること」の統合をめざして —主体的に学び続ける集団へのアプローチ—

6月11日（金）、平成22年度附属坂出中学校教育研究発表会が、晴天のもと盛大に行われました。当日は、県内外の小・中・高、大学及び教育関係機関などより約600名の参会者をお迎えし、本校の研究実践をご覧いただくとともに、全国にその意義と歩みを発信することができました。

今回の研究発表会では、「学ぶこと」と「生きること」の統合をめざし、主体的に学び続ける集団であるために教師のかかわり方はどうあるべきかに焦点をあてました。そして、「協同的な学び」と「語ること」を柱として学習を段階的に進めるカリキュラム（「共通学習」-「シャトル学習」-「総合学習『CAN』」）を中心とする提案をしました。

#### 共通学習

今、教科の学習において、思考力や活用力を伸ばすことの重要性が叫ばれています。しかし、それを知性の部分で考えるだけでは、生徒が本当に学習の意味や価値を実感することにはならないと私たちは考えています。そこで、知性だけではなく感性的な部分も大切に、その統合を図って学びの文脈の更新を促す授業づくりに取り組みました。

発表会当日は、「習得」を柱とする「共通学習Ⅰ」（音楽・美術）、「活用（探究）」を柱とする「共通学習Ⅱ」（国語・社会・数学・理科・保体・技家・英語）を公開しました。



【音楽科】



【美術科】



【英語科】

#### シャトル学習

今回の研究では、「シャトル学習」を、活用と探究をつなぐ学習としてカリキュラムに位置づけました。異学年合同（3学年）で協同的に学ぶスタイルを基本とし、教科の発展的な学習に他教科からの支援も加え、生徒が選択・設定した課題を解決していきます。生徒の視野が広がり、主体的で探究的な学びの場である総合学習「CAN」につながるものとして開発を進めています。



【国語科】



【社会科】



【数学科】





【理科】



【体育科】



【家庭科】

## 総合学習「CAN」

教科等で培った学びを、実生活の中で見出した問題解決へと昇華させる総合学習「CAN」。「シャトル学習」と同じく異学年合同ですが、興味・関心をともにする研究グループ「クラスター」(3～5人)で探究を進めます。

発表会では、すでに活動を始めている2・3年生による「クラスター」が新しい研究同人として1年生を勧誘する場面を公開しました。積極的に先輩に質問する1年生と、丁寧に分かりやすくそれに答えながら、研究している内容を紹介する2・3年生。この後の本格的な学びへのやる気と期待を感じさせてくれました。



【質問する1年生とそれに答える2・3年生】



【勧誘活動を振り返っての語り合い】

## 講演

日本女子大学人間社会学部教授 吉崎静夫先生に、「習得・活用・探究のための授業デザイン」という演題でご講演いただきました。

さまざまな学力調査の結果分析から、キーワードは「つなぐ」であるとされ、「習得」「活用」「探究」という学習活動をいかにスムーズにつなぐかが大切だと話されました。そして、そのための授業デザインのモデル図を示され、その具体である全国の実践例をご紹介くださいました。

今後とも本校の研究を自信をもって進めていける、大きな力を与えてくださったと感謝しています。



## 研究発表会を終えて…

各教科の研究協議会やアンケートでは、参会者の方々から本校の研究実践について多くの賛同の声寄せられました。また、生徒たちが主体的に学ぶ姿に対しても高い評価をいただきました。私たちはこれらを励みとして、次のステップを踏み出すべく思いを新たにしています。

このように私たちが前へ歩んで行けますのも、各校園の諸先生方、そして保護者の皆様方のご理解とご支援があつてのことと深く感謝し、今後とも本校の研究実践を全国に発信していきたいと思っております。ありがとうございました。



## 教育実習生の先生たちと

6月21日（月）から始まった保育専門学院の教育実習。一週間、教育実習生のお姉さん先生たちと一緒にいろいろな活動ができることを、楽しみにしている子どもたちが毎年たくさんいます。

今年度も、それぞれのクラスで教生の先生とのふれ合いを楽しむ子どもたちの姿が見られました。

### ～5歳児青組～

夕涼み会に向けて、みんなで相談しながら青組の出し物（おばけめいろ）の準備を進めている子どもたち。夕涼み会のときにおばけに変身することも、とても楽しみにしています。「どんなおばけにしようかな」「こんなのを作りたいな」…とワクワクしながら考えている子どもたちの思いに共感し、教生の先生たちが心を寄せて丁寧にかかわってくれました。そんなかわりに支えられて子どもたちのイメージが膨らんだり、こだわりをもって作っている姿を認めてもらって嬉しかったりする姿があらこちらで見られました。

作る過程も楽しんでいますが、おばけの衣装が完成したときには一段と嬉しくて、早速それを着て遊びます。さらに、それを見た周りの子どもたちが「自分も作りたい」と取り組みます。教生の先生のかかわりで、主体的に取り組んでいこうとする意欲がさらに高まった子どもたちの姿が印象的でした。



### ～4歳児赤組～

「教生の先生がいっぱい来てくれるよ」ということを知らせたとき、「うわあ、一緒に遊べる、楽しみ!」という声があちこちからあがりました。

出会ったときから、「一緒に遊びたいな」という気持ちを、自分なりの表現の仕方で伝えていく人もいれば、たくさんのお姉さん先生との出会いにちょっぴり戸惑っている人もいました。しかし、一緒にかかわってもらって中であらずつ嬉しさを感じ、「先生、今日も一緒に～して遊ぼう」「先生と一緒に手をつないでプールに行きたいな」と、自分から実習生を誘う姿もたくさん見られるようになりました。

プール遊び、泥んこになっての砂遊び、中型積み木の迷路づくり…。自分のしたい遊びを存分に楽しんだり、友だちと一緒に遊ぶことを楽しんだりする中で、教生の先生たちとじっくりとかかわれる喜びも感じている子どもたちです。



### ～3歳児黄組～

黄組の子どもたちにとって、教生の先生と共に一週間を過ごすのは初めての経験です。担任も、新しい人とのかわりの中で、黄組の子どもたちが「大丈夫なんだ」という安心感をもてるようにと願っていました。

初めは緊張感をもって出会ったけれど、お姉さん先生たちにいろいろなことを温かく受け止めてもらう中で、優しい、安心してかわられる存在なのだと感じていった子どもたちの姿がありました。園庭や保育室、砂場などで、「こっち来て」「これ見て」と、呼ぶ声が聞こえてきます。自分を見てほしい、自分の話を聞いてほしいという気持ちがいっぱいなのですね。お姉さん先生がそんな気持ちに答えてくれることで、満足感や自信を味わっている子どもたちです。



残念ながら、保育専門学院の教育実習は今年度が最後です。毎年、子どもたちを温かい眼差しで見つめ、優しくかわってくれた教生の先生たち。教師も実習生とのふれ合いを通して子どもたちが感じた温かさや嬉しさに共感しながら、これからもいろいろな人とのかわりを広げたり深めたりしていく子どもたちの育ちを大切に見取っていきたいと考えています。



## 知の更新をめざした「思考力」の育成（二年次）

－言語活動を充実し、思考様式を共有化する授業づくり（仮）－

附属坂出小学校では、言語活動を充実し、考える術である思考様式を共有化する授業づくりを通して、子どものもつ認識が新たになるような「思考力」を育成しようと試みています。本年度研究の重点を「思考様式の有用性」に絞り、個々の実感・納得を「体験を言語化」する開発教材によって、集団の承認・合意を集団の考えを発展させる「集団吟味」によって、実現させようと試みています。

以下に、実践しました授業をご紹介します。

### ●●研究授業●●

#### 4年 理科「電気のはたらき - 明るさの違いのひみつ -」

ふたがみ ともひと  
二神 朋人

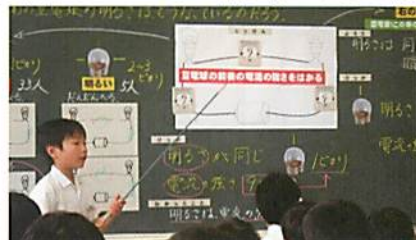
5月31日  
4東  
理科

大学との  
合同研究  
集会

子どもは、電池の数が多ければ、電気の働きが大きくなると捉える傾向にあります。しかし、電気の働きの大きさは、回路のつながり方や豆電球などの抵抗となる物の数によっても変わります。そこで、子どもが、電池の数だけによらず、電流の強さや向きと豆電球の明るさやモーターの回転速度・回転方向を関係付けて捉えることができるように、本単元を設定しました。

本時、子どもたちは、豆電球の直列回路(乾電池1個と豆電球2個が直列につながっている回路)の豆電球の明るさを考えました。豆電球の明るさを考えていく過程で、子ども一人一人の電流に対する捉え方の相違が明らかとなってきました。そして、全体での話し合いの場で、次のような考えが出されました。「乾電池から出てくる電流は、2個の豆電球で半分ずつ使われるから、豆電球の間では電流は弱くなる。」「乾電池の+側から出てくる電流は、豆電球を通るたびに使われて、-側に来たときは減っている。」「1つの回路では、電流の強さはどこの場所でも同じ。」そこで、それらの電流の強さについての捉え方の違いを解決するために、思考様式「豆電球の前後に目を付ける」を活用し、2個の豆電球前後の3カ所で電流を測定し、予想の真偽を検証していこうと話し合いました(集団吟味)。実験の結果、測定した3カ所とも、電流の強さが同じだということが分かりました。そして、電気の働きのある豆電球の明るさが2つの豆電球で同じとなることを実際に目で見て確認し、電流の強さと電気の働きを関係付けて捉えていきました(体験の言語化)。

参観された大学の先生方からは、「子どもが、思考様式の有用性を『承認・合意』する集団吟味での話し合いをより充実させることが大切だ。」「誤答の取り上げ方を工夫すれば、その子どもの考えも生かせるし、他の子どもたちの思考も一層深まる。」等の貴重なご示唆をいただきました。



【集団吟味で電流に対する捉え方の相違を明確にする】

#### 6年 社会科「ムラからクニへ」

ひまうち ひでのり  
山内 秀則



【縄文時代1万年間を長さで表す】

今改訂で、「農耕の始まり」が「農耕の生活」に改められました。このことを「弥生時代は米づくりと争いが始まった時代」に留まらず「生活の大部分が米づくりと争いに備える時代」とまで時代の様子を具体化することと捉えました。「米」を単なる食べ物の一つとして認識していたのでは、弥生の農耕生活を縄文と異なるものとして捉えられません。単なる食料の奪い合いならば、縄文時代に「狩りの獲物」を奪い合って争いが起きても不思議ではないからです。ムラが命をかけて争うのは、弥生人にとって米が命に関わる価値あるものだからこそです。

そこで、「米づくりが始まるとなぜ争いが起きるのか」という問題解決を図りました。まず、縄文の遺跡から出土しなかった頭のない人骨や鎌の刺さった人骨等を提示し、弥生時代に何が起こったのかを話し合いました。個人間ではなくムラとムラの争いが起きたこと、米づくりと関係があることを確認し、学習問題を作りました。はじめ、子どもたちは、争いの原因を米や米づくりに必要な土地、水、道具を奪い合ったから、と考えました。

そこで、「前の時代と比べる」思考様式を活用し、弥生人にとっての米の価値を見つめ直すことにしました。具体的には、時間を長さで「見える化」したり、構造図の「米づくりと米」を「狩りと獲物」に置き換えたりして予想の妥当性を吟味しました(集団吟味)。それにより、時空間を広げて考え、米の「長期・継続的共同作業」「量」「長期保存」「循環再生産」という特徴や長期間の苦労を伴い「安定・安全な食料である」という価値に気付いていきました。そして、獲物よりも、より命や生活を左右する「米」故に命をかけた争ったと考え始めました。

さらに、「袈裟磔文銅鐸」(伝讃岐国出土)に描かれた絵(倉庫、脱穀)から弥生人が何に価値を置いていたかを想像したり、絵を描き写したりして、感じたことを話し合いました(体験の言語化)。

これら2つの言語活動を通して、「前の時代と比べる」思考様式の有用性を学習集団で共有化していきました。



【銅鐸の絵から弥生人の価値観を探る】



## 附属特別支援学校における進路指導について

### 特別支援学校知的障害教育校の進路指導

知的障害教育校における生徒の進路には、一般事業所への就労（一般就労）と福祉事業所への通所及び入所（福祉就労）、そして進学があります。福祉事業所とは施設や作業所であり、県内に数十施設あり現在も増えています。

高等部では、卒業後の進路を決定するまでに1年次に1回、2年次に2回、3年次に2回以上、合計で5回以上の現場実習を行います。1, 2年次は3名程度の集団で行いますが、これは日頃の作業学習や職業教育の成果を試す場となっています。3年次の現場実習は個別で行い、自宅から通勤します。福祉就労を目指す生徒にとっては、進路先を選択する場となり、一般就労を目指す生徒においては、実質の入社試験となります。そのため、現場実習の結果によって、福祉就労先を決めたり、就職先が決定したりします。

### 附属特別支援学校の進路状況

年度	一般就労	福祉就労	計
17年度	4	3	7
18年度	2	4	6
19年度	3	7	10
20年度	2	6	8
21年度	4	6	10



現場実習の様子

### 本人・保護者のニーズに合った進路指導

本校においては、福祉就労と一般就労の双方において、できる限り希望に添った進路支援ができるよう努めています。

### 卒業生が初めて香川大学に採用されました

今年の3月に本校を卒業された飛倉一輝さんが、香川大学の非常勤職員に採用され、本校の庁務員として働いてくれています。飛倉さんは本学幸町キャンパスの教育学部総務課において、高等部の2年次と3年次で計3回の現場実習を行い、就職につながりました。後輩達の見本として、校内の清掃業務や事務の補佐をしてくれています。



学校の清掃をしている飛倉さん

### 本校を卒業する生徒を雇用してください

一般事業所で働きたいと願う生徒はたくさんいますが、景気の影響も大きく就職難の状況が続いています。県内における近年の特別支援学校の就職率は、30%前後です。この低い就職率でも、全国では上位になります。

障害者の雇用に関心がある方、また説明を聞いてみたいという事業主さんがいらっしゃいましたら、本校の進路担当（多田）までご連絡ください。障害者雇用に関することでしたら、どんなご相談でもお受けいたしますので、是非ご一報ください。



## 特別支援教室「すばる」の研修事業について

香川大学大学院特別支援教育コーディネーター専修は、平成20年度より開始され、毎年7名前後の現職の先生方が、大学の授業と実習を受けています。特別支援教室「すばる」は、実習機関の一つとして位置づけられています。

特別支援教室「すばる」では、研修事業の一環として県教委派遣の内地留学生と香川大学大学院特別支援教育コーディネーター専修生を受け入れ、個別指導実習を行っています。以前の紹介で内地留学生については紹介しましたので、今回は、コーディネーター専修生の紹介をします。

香川大学大学院特別支援教育コーディネーター専修は、平成20年度からはじまりました。専修生は、現職の保育士・小学校・中学校・特別支援学校の先生方が香川大学の大学院で1年間勉強するコースです。3年間で、21名の専修生を受け入れてきました。

特別支援教室「すばる」での実習は、週1回の個別指導の担当者として、専修生がかかわります。その際に、アドバイザーとして香川大学特別支援教育講座の先生方が、個別指導の子どものアセスメント・保護者面談・個別の指導計画の作成・指導教材の作成・指導方法・評価・次の指導課題などを、適時に具体的にアドバイスしていただいています。また、専修生は個別指導だけでなく、大学の先生の指導のもとに心理検査を実施し、解釈し、指導に生かすことも行っています。年度末の修論発表会では、すばるでの個別指導の結果を基に発表する場合もあり、すばるでの実践が研究としてのまとめりをもつことができるようになりつつあります。



### お知らせ

第3回特別支援教育研究大会の概要が決まりましたので、お知らせします。詳しくは、後日発送します案内状、または本教室のホームページ<http://www.ed.kagawa-u.ac.jp/~tokubetsu/>をご覧ください。

### 第3回 特別支援教育研究大会

大会テーマ「特別支援教育の充実」

サブテーマ「発達障害児を対象とした根拠のある指導と評価を伴う支援」

主催 香川大学教育学部特別支援教育研究大会実行委員会

後援 文部科学省（予定）、香川県教育委員会、一般社団法人日本LD学会

1. 日 時 平成23年3月5日（土）9：30～17：00

2. 場 所 サンポートホール高松

3. 日程・内容

午前＝シンポジウム「他府県の特別支援教育の現状とすばるの取り組み」

シンポジスト：東京都、新潟県、本教室より各1名

コメンテーター：石塚 謙二（文科省特別支援教育課教科調査官）予定

コーディネーター：武蔵 博文（特別支援教室室長・香川大学教授）

午後＝分科会；教科指導、社会性育成指導、保護者支援、担任支援、認知機能のアセスメント

特別講演 上野 一彦 先生（東京学芸大学名誉教授・日本LD学会理事長）



## 幼稚園より

## ウェンディーの会 ～ソフトバレーボール～

ウェンディーの会の活動の1つにソフトバレーボールがあります。火曜日の午前中に坂出市立体育館にて練習しています。たくさんのお母さんたちが参加してくださり、黄・赤・青組という学年を越えて、交流を深め爽やかな汗を流しています。いつも笑いの絶えない楽しい会です。7月4日（日）の市Pソフトバレーボール大会には、ウェンディーの会から3チーム出場しました。応援ありがとうございました。

スポーツは苦手だったり、球技が初めてというお母さんたちも一度参加してみると、とてもリフレッシュできますよ。興味のある方は是非参加してみてくださいね。



## 夕涼み会

7月9日（金）は夕涼み会でした。平成13年度より保護者の企画立案によって催されています。毎年保護者の方々のご協力で、子供たちにとって大変楽しい行事となっています。6月中旬頃から、各クラスで準備をはじめました。当日は、笑顔がいっぱいで、子供たちの楽しい幼稚園生活の思い出の1つになりました。保護者の方々ご協力ありがとうございました。



## 小学校より

## ウェルカムパーティー

5月22日に土曜クラブの活動として、新一年生と保護者を迎えてウェルカムパーティーを開催しました。「お名前教えてゲーム」や「新聞おりおりぎゅーぎゅーゲーム」を体育館で親子一緒に楽しみました。また、保護者と担任の先生との学級懇談会も各教室で行われました。

一年生は新しい友達ができ、保護者の方々には子どもの学校生活に関する疑問や不安を話し合うことで、少し解消できたようでした。参加した一年生と保護者の皆さんは笑顔で家路につきました。



## 土曜メンテナンス

6月13日に土曜メンテナンスとして、昨年始めた「校庭の芝生化」をさらに推進するため、芝生の植え付けを実施しました（今年は日曜日に実施）。あいにくの雨模様でしたが、60組の親子が参加して芝生を植え付けました。泥で汚れた軍手を脱ぎながら、自分たちで植えた芝生を満足そうに眺めている子どもたちの姿が印象的でした。



その後、保護者の方に協力していただき、教室の椅子や歯磨き台の緩んだボルトの絞め直しも行いました。



## 中学校より.....

### オープンスクール、保護者交流会

「松韻会カフェ」ってご存知ですか？ これは、参観時に一休みするスペースがあればという多数の声があり、昨年度の文化祭から「松韻会カフェ」と銘打って多目的室をお借りして設けた休憩の場です。

ここでは来校された方々が、お茶を楽しみながらゆっくりおしゃべりを楽しまれたり、授業参観の合間に一息つかれたり、修学旅行や運動会などの子ども達の活動を記録したDVDの放映を楽しまれたりしています。ワンコインでの本格コーヒー等の飲み物サービスも好評です！



6月27日、土曜クラブ・保護者交流会がありました。日頃の不安や疑問を他の保護者や先生方に直接お聞きする機会として年々参加者が増え、今年度も大勢の参加者で熱気あふれる交流会になりました。最後に各学年団での交換意見の発表をし、他の学年の様子にもふれていただき、何らかの参考にしていただけたかと思えます。

保護者と保護者、保護者と学校とが、顔と顔が見える関係・声が聞こえる関係であるために、こういう交流の場をこれからも設けていけたらと思っています。

## 特別支援学校より.....

### 親和会活動紹介



附属特別支援学校PTA会長 加賀 実

新年度がスタートし、親和会も新体制になりました。そこで、親和会の活動の一部をご紹介します。

- 春 ... 親和会総会  
春季運動会（バザーや臨時駐車場草刈等）  
わいわいランチタイム
- 夏 ... 救急法講習会  
プール開放  
PTAスポーツ大会
- 秋 ... PTA親子研修旅行  
府中湖水のフェスティバルでのバザー  
学校祭「ふれあい祭り」でのバザーや広告集め
- 冬 ... ボウリング大会



春季運動会バザー

等、少ない人数ですが、子どもたちとともに楽しく活動しています。

例年、松韻会の皆さまには、合同運動会等の各種行事にいろいろとご支援・ご協力いただきありがとうございます。

今年度も、皆さまとのよりいっそうの連携も含め、充実した親和会活動を続けていきたいと考えていますので、よろしく願いいたします。



修学旅行

3年生は4月9日(金)～13日(火)まで4泊5日の修学旅行に行ってきました。屋久島から知覧、長崎に至るコースです。屋久島では、今年ついに縄文杉まで登るコースが設定され、他のコースとも合わせ、世界遺産を満喫しました。知覧および長崎では、平和学習を通して、戦争の恐ろしさと、今ある平和のありがたさを痛感しました。



屋島集団宿泊学習



2年生は4月27日(火)～30日(土)まで3泊4日の集団宿泊学習に行ってきました。1日カッターコースで、無人島上陸に挑戦したり、サイクリングを行ったりしました。強風のため残念ながら無人島までたどり着けなかったグループもありましたが、自然の厳しさの中で、団結することの大切さや、友との信頼を高め合う活動となりました。

中学校

1年生を迎える会

4月30日、児童会主催で1年生を迎える会が行われました。6年生に手を引かれ入場した後、全校で合唱、2年生からのプレゼント、学校紹介クイズ、ジャンケンボーリング、ものまね先生当てゲーム等、楽しい催し物がいっぱいありました。アーチをくぐって退場する1年生は笑顔に満ちあふれていました。これから、一緒に小学校生活を楽しく過ごしましょう。



心肺蘇生講習



5月24日、給食自由参観、授業参観に引き続き、心肺蘇生実技講習会を開催しました。坂出市消防署より救急救命士2名を招き、自動体外式除細動器(AED)を用いた心肺蘇生法を研修することができました。参加された保護者の方々も職員も真剣に研修に臨みました。心臓マッサージと人工呼吸の30:2を繰り返すことが基本で、AEDを使うことよりも大切であるという認識をもつことができました。

小学校

特別支援学校

天気もバッチリ！みんなで楽しい春季運動会

5月9日(日)。天気にもめぐまれ、在校生・卒業生・地域の方々・附属中学校の友達・保護者の方々に大勢参加していただき、活気のある楽しい運動会となりました。全校生による入場行進から始まり、徒競走、親子競技、交流種目、PTAや卒業生による競技など、どれも盛況に行うことができました。

運動会最後の恒例のプログラム「みんなでおどろう」では、参加者みんなで手をつなぎ「キセキ」の曲にあわせて運動場いっぱいの大きな輪をつくり、楽しく踊ることができました。子ども達にとって楽しい思い出がまた一つ増えたことと思います。参加してくださった方々本当にありがとうございました。



幼稚園

おひさまとなかよしになろう



「早寝・早起き・朝ごはん」運動に取り組んでいます。特に、朝の光をしっかりと浴びて25時間になっている体内時計をリセットすることや抗酸化、抗癌作用のあるメラトニンシャワーを浴びることの大切さを話しています。そして、子どもたちや保護者が意識しやすいように「おひさまとなかよしになろう」を合言葉としています。生活リズムについて保護者の方にアンケートを実施しましたが、幼稚園の子どもたちは比較的、早寝・早起きの生活リズムができているように感じました。(保護者の方の理解があっこそです)



先日の保育参観で生活リズムについて提案をしたところ保護者の方から、こんなお話を聞くことができました。

早く寝ることの大切さがよくわかりました。でも、父親が帰ってくるのが遅く、それを待っていると遅くなってしまいます。できれば、夜は早めに寝かして、大人も早起きをして、朝にふれあいタイムがつけられるようにしてみます。

良いことはわかって、なかなか実際の生活の中で実践するのは、むずかしいことですが、それぞれの家庭で、できることから始めていただいている様子が伝わってきました。



編集後記

今年は雨が多くプールでの活動が心配でしたが、雨の合間に、思った以上に活動することができ、子どもたちの歓声がプールに響いていました。様々な行事も実施され、附属坂出学園の新たな一年がスタートしています。6月には中学校の研究発表会も行われ、県内外から大勢のお客様を迎えて、研究の成果をあげることができました。

さて、子どもたちにとっては待望の夏休みです。夏休みならではの体験を通して、9月に一回り大きくなった子どもたちに会えるのを楽しみにしています。

発行年月日：2010年7月16日

発行事務局：香川大学教育学部附属坂出小学校内

佐藤 美芽 (附属幼稚園)

宮野 真也 三宅 永哲 (附属坂出小学校)

寺岡 英郎 小林 理昭 (附属坂出中学校)

武田 光弘 木下 博美 (附属特別支援学校)